

第5回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕 2012年8月23日（木） 18:00～20:00

〔場 所〕 本庁舎 10階 10-3会議室

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：石川 清（会長）、小川 久江（副会長）、川島 演、黒田 純子、佐合 昭浩、
菅谷 万里子、竹葉 かほる、辰巳 厚子、並木 修、西原 要四郎、柳沼 恵一
以上 11名

事務局：熊田センター長、小林課長補佐、外川統括係長、丸山主事（記録）

〔欠席者〕 岩本 陽児、富川 尚子、中村 香

〔傍聴人〕 1人

〔資 料〕 ・第5回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・2013年度生涯学習センター事業について
- ・2012年度生涯学習センター事業企画書兼事業評価シート資料1～8
- ・センター長報告
- ・点検及び評価シート
- ・平成24年度 東京都公民館連絡協議会委員部会 第1回研修会アンケート結果報告
- ・第1回研修会記録（平成24年7月15日）及び資料

<協議事項>

1. 生涯学習NAVIについて

事務局：生涯学習NAVIのコラムについて、前回は佐合委員と富川委員にお願いした。今回も2名の方にコラムをお願いしたい。岩本委員から執筆について問い合わせもある。期日は今月いっぱいとなるが、どなたかお願いできないか。字数は600字程度、前は「生涯学習センターの開設にあたって」、「協議会委員としてどのような視点を持っているか」という内容だったので、そういうところで書いていただければと思う。

委 員：どのようなセンターを目指すかということによろしいか。

→辰巳委員、岩本委員に執筆をお願いする。

会 長：今後、生涯学習NAVIのコラムをどうしていくのか。持ち回りで執筆するのか、予定を立てたほうが良い。

事務局：できれば、コラムを運営協議会委員の方々に継続して書いていただきたい。また、今後のコラムや特集をご検討いただければと思う。

副会長：コラムは、あまり堅苦しくなく、みなさんの人柄が出るような感じで書けたらいいと思う。

事務局：次回は12・1月号になる。11月中頃までに仕上がるように予定を組みたい。原稿は10月中にいただければと思う。

副会長：9月のセンター運協までに、次の執筆者を決める形でよいか。

事務局：来月であれば間に合う。

2. 2013年度生涯学習センター事業について

事務局：生涯学習センター内であり方検討委員会を立ち上げ、来年度の事業について検討しているところである。9月中に結論を出し、教育長へも報告して来年度の事業に反映していきたいと考えている。本日、配布した資料は途中経過である。検討委員会は3つの部門にわけて検討している。1つ目は既存事業の見直しである。2つ目は、生涯学習センターの新規事業として、情報収集・発信、相談業務の充実という新たな業務についてである。3つ目は、支援系

業務である。これは、今まで生涯学習課が担っていた学校開放事業やその他支援の事業である。3部門の途中経過を簡単に説明させていただく。

生涯学習センターではどんなことをしたらいいのかという視点に立ち、事業の見直しをしている。限られた人員と予算の中で、来年の事業に反映していきたい。ことぶき大学は、高齢者の生きがいづくりやひきこもり対策等の目的があり、現在、10コースを実施している。座学ではない実技コースは、非常に競争率が高く、コースによっては10倍になるものもあるので、これは見直しをしていく必要がある。ホールで実施する座学のコースは、従来通りの方法で行い、新たに1コースを新設できないかを検討している。サタデーコンサートは、年に5～6回実施している。クラシックコンサートを中心に実施しているが、市民ホールや他施設でも同じようなコンサートを行なっているので、生涯学習センターとして今後どうしていくのか検討をしている。また、コンサートは無料で提供しているが、できれば有料化していきたいと考えている。高額を徴収するのではなく、1コイン（500円程度）でできればと考えている。子どもフェアは、夏休みと春休みに実施している。8月26日に全館を使用した子どもフェアを企画しているが、ひなた村や子どもセンター等でも同様のイベントが実施されている。今後、生涯学習センターではどのような位置づけで実施するのが検討課題になっている。コーディネーターの養成講座は、従来から市民大学と公民館の両方で行っていた。今年は統一化してやりたいと考えていたが、コーディネーター養成講座を実施した後の受け皿が見つからないということで、実施を保留している。この事業は、これから立ち上げを予定しているボランティア登録制度「ボランティアバンク」と一緒にやれないかを考えている。様々なスキルを持つ方や団体に登録していただき、地域でオーダーがあれば、生涯学習センターでコーディネートをして地域で実施していただくという制度である。仕組みづくりや登録の準備があり、立ち上げまでに半年程度を要する。来年度から実施したいと考えている。市民大学事業は、公民館事業と整合性をはかる必要がある。センター事業として再構築を目指していきたい。国際学について、グローバルな視点で学んでいただいているが、趣味・教養的であるとの意見もある。地域コミュニティに生かせるようなカリキュラムにできないかを検討している。健康学について、公民館のことぶき大学の中にも健康コースがある。ことぶき大学は60歳以上の方、市民大学は年齢制限なしとの対象の違いはあるが、事業としては同じような内容になっている。これも再検討する必要がある。

情報相談業務については、NAVIの充実や窓口の設置等、拡大をしているところである。今後、さらに濃密にやっていきたい。特に2013年度は、生涯学習の情報システムとなる専用HPを構築していきたい。予算にも計上していく。

支援系については、市民企画講座と自主学級を整理、見直していく必要がある。社会教育関係団体の事業費補助金と社会教育関係講師派遣制度は2013年度で終了するということがあり、事業の見直しを考えていく必要がある。また、新たに生涯学習ボランティア講師派遣制度（人材バンク）の構築を考えている。職員配置等の人的面で考えていかなければいけないが、是非実施していきたいと考えている。

（意見・質問）

会 長：あり方検討委員会はどこで構成されているのか。

事務局：生涯学習センターの職員で構成している。庁内のワーキングである。

委 員：昨年まで、コーディネーター養成講座の講師を担当してきたので、その感想も踏まえてボランティア講師派遣制度について意見を述べたい。市民大学で実施しているコーディネーター養成講座は回数も少なく、受講後どうするのがはっきりしない点では見直すべきと思っている。コーディネーターというと資格的、役割的なものを感じてしまうが、市民活動をしているすべての方がコーディネート能力をつけるべきだと思う。例えば、大勢の人が集まったときに、どのように意見を集約し反映させるのかという市民力を養うために、企画の立て方やワークショップの作り方等、具体的な講座を実施したほうが良いと思う。また、ボランティア講師の人材バンクについて、様々な市町村のボランティアバンクを見てきたが、それを設立しても、機能している市町村はほとんどない。生涯学習センターの職員が知っている方を紹介する形が多く、名簿として人材バンクを設立しても使い勝手は大変悪いと思う。もし、

人材バンクを作るとしたら、人材バンクというよりはプログラムバンクといって、こういう講座を作れます、こういうことを教えられますというような、内容のしっかりしたプログラムを提供したほうが機能するのではないかと思う。

委員：ボランティア登録制度は、様々なところで実施しているが、成功した例をあまり聞いていない。もっと工夫する必要があると感じる。受け皿がないとあるが、コーディネーター養成講座を受けた方がコーディネーターの会を立ち上げて活動している。全く受け皿がないわけではなく、現在、27～28名の会員で講座の企画・運営をしている。

委員：コーディネーター養成講座と銘打つてする必要はないと思う。町田市には優秀な人たちがいる、プログラム委員会というのが市民大学の中にある。コーディネーター養成講座といっても、コーディネートすることを考える企画をされている人をあまり知らない。多摩地区で行われている養成講座は、コーディネーター養成講座が終わって何をやるかという、自分が講師となって何かを企画する活動や行動になっている。スキルを持っていない人たちが講座を受けても、問題が出てきてしまう形となっている。養成講座という位置づけを考え直す必要があると思う。

副会長：活用できることが大切であって、養成講座を実施しても、その方が地域の中でどう活躍し、地域の方々へどう求めてもらえるかが大事だと思う。町田市ではこういうスキルを持った人がいるとの羅列では意味がなく、やはりその方をどう生かせるのかを示していくほうが、本当の意味で地域の中で活躍できる場所を作っていくと思う。来年のHP立ち上げにあたって、そういった書き方をしたほうが色々生きてくるのではないかと思う。

会長：コーディネーター養成講座の問題点や現状はわかるが、コーディネーター養成講座を今後も続ける必要があるか。コーディネート力をアップさせる講座の必要性はどうか。

副会長：人材育成は必要であると感じる。

委員：町田市では様々な市民活動をしている方々はたくさんいる。それを、例えば、高齢者施設とコラボする等、能力やノウハウをつけていくことはいいと思う。自分たちの活動はよくされているが、市民間の課題とどう結びつけていくか、スキルアップすることは非常に必要だと思う。コーディネーターの養成だと、役割のように感じてしまうが、もっと市民力をつける具体的な課題解決能力であるとか、コーディネート能力であるとか、ワークショップを企画する能力であるとか、人に教える教え方の能力であるとか、個別の能力をスキルアップしていく講座は必要である。それを全部揃えて、コーディネーター養成講座とするのは難しいと思う。

委員：受け皿を生涯学習センターで用意し、意欲を持って学んだ方たちがスキルアップしながら実施できるプランを組んであげれば、地域の中で人材が増えるし、その方たちも活動を通して気づきが生まれるのではないかと思う。

委員：町田コーディネーターの会というのが動き出して1年と少し経つ。現在、市民協働推進課と協働して、子ども会連合会や老人会連合会と組んで講座を実施する話が進んでいる。それは、講座を受けた卒業生が地域興しのため、地域の課題に取り組み始めている。市で受け皿を考えていただければ、もっと育っていくのではないかと思う。

委員：学級を運営していく能力を養うこと、活動しているNPOや学校活動と連携する、繋がりを持つこと、コーディネートする力をつけることを養成講座としてできれば良いと思う。ところで、「2013年度生涯学習センター事業について」の事業精査の暫定的判断基準について、今回、見直しをかけているのは、統合化によって重複している部分や生涯学習センターとして足りない部分、新しい時代の要請にマッチしていない部分をさらに強化しようという狙いを発していると思うが、それを判断する基準としてある3つの基準は、いままでの議論と少しずれ違いがある。ベーシックなところで判断基準をおいているが、この判断基準を敢えて設けている理由は何か。

事務局：生涯学習センターは、総括してできたものである。公民館はあくまでも社会教育施設であり、実施する事業は社会教育法で決まったものだった。市民大学は人材育成であり、人づくり・街づくりという視点に立った目的で行ってきた。その他、支援系業務も入り、そういった要素を全部ひっくるめたものが生涯学習センターである。今まで行ってきたもの全てが生涯学習セン

ターではない。町田市の中の様々な部署で生涯学習を実施しているが、それら全てを網羅した中で、改めて生涯学習センターとして何をしていくのか、原点をもう一度見直そうとしている。生涯学習は範囲が非常に広く、様々な部署で行っているものが入ってきてしまう。その中で、生涯学習センターとしてどういう立ち位置に立つべきか、今までできなかった部分があるならばそれを生涯学習センターで行うことが必要であり、改めて見直し、整理していく上で判断基準を設けている。

委員：社会教育を中心に添え、さらにそれを広げていこうという考え方でよろしいか。

事務局：生涯学習は社会教育や学校教育等、様々な分野が入っている。その中で、判断基準を設けて整理しているということである。

委員：もう少し分かり安い言葉で書かれていると良い。市民が自主的に相互に学び合いながら、人づくり・町づくりをしていくということだと思う。それはカルチャースクールのようなタイプではなく、市民が自らの力で学んでいこうと、それを支援していこうということだと思う。社会教育の促進というように、明確に判断基準として分かりやすくしたほうが良いと思う。

委員：生涯学習センターとして、判断基準に挙げているのは当然にベースになると思う。新しく生涯学習センターとして新しいものを目指すのであれば、今まで公民館でしてきた自主講座や市民講座はそのまま流していけばいいと思う。その一方で、町田の市の生涯学習は何をやりたいたのかという部分を、テーマを絞って集中的に力を注いでいくほうが、生涯学習センターとしての機能を十分に果たせるのではないかと思う。

会長：テーマは、到達目標や方向性のことだと思う。ここで書かれているのは、何をするのかという枠組みである。枠組みはこういうことでもいいと思う。辰巳委員が言われたことは、その枠組みの中のコンテンツのことだと思う。

委員：受け皿という話があったが、生涯学習センターの職員は人数が限られていて、何もかもをやらせようとするのは無理だと思う。コーディネーター養成講座を受けて活動している方々がいるので、そういう方達に受け皿をお任せし、生涯学習センターが受け皿を作る必要はないと思う。例えば、市民企画のコンテストを開く等をして、発表する場を提供するだけでいいと思う。市民企画も発表し、それを市民に評価してもらうようなコンテストを企画したらどうか。それが受け皿ではないか考える。

会長：これから生涯学習センターがやるべき問題が出てきたと思う。枠組みやコンテンツの問題があり、どういう指針や到達目標・方向性を持つのか、その次に個々の事業について考えれば良い。議論した内容は、是非あり方検討会に持ち帰っていただきたい。あり方検討委員会に任せただけではなく、ここの協議会でも平行して議論していきたいと思う。また、専用HPの構築が重要となるので、是非実現していただきたい。予算はどのくらいか。

事務局：専用HPの立ち上げは、情報収集・発信の中で大きなウェイトを占めている。HPを見ることによって、市民が生涯学習の情報を得られるという意味では重要である。初期費用は、運営を含めて200万円程度、また、毎年100万円程度の運営費がかかる。情報の更新が重要であり、それは職員が行わなければいけない。導入後も人的面の確保が必要になる。課題もあるが、専用HPは是非構築したいと考えている。

3. 2012年度生涯学習センター事業の企画について

(1) 資料1「介護予防月間オープニングイベント」について説明。

(意見・質問)

会長：来場者数が300名というのは、どういう数字か。

事務局：前年度を見て、300名という目標数を出した。去年は270名くらいの参加があった。(統括)

委員：申込み方法がその他となっているが、どのような方法か。

事務局：子どもフェアと同じように、当日来館していただく。事前の申し込みは必要ない。

委員：事前に人数の把握はできないのか。

事務局：事前にはわからない。

委員：前年度は受付で混乱がみられたとあるが、これは人が押し寄せたということか。

事務局：これは職員体制のことである。高齢者福祉課との関係で、役割分担が整っていなかった。

委員：名前を記入する等の受付をしていたのか。

事務局：していた。

(2) 資料2「東日本大震災を忘れない 防災力UP講座」について説明。

(意見・質問)

委員：5回講座であるが、連続講座か。評価で受講率を出す際、述べ人数ではなく、回数毎に人数を出したほうが判断しやすいと思う。

事務局：連続講座である。5回連続で、定員35名である。

委員：ほとんどが土曜日開催であるが、24日は水曜日になっているが何故か。

事務局：立川の防災館に行く予定である。

会長：現地集合か。

事務局：現地集合である。

(3) 資料3「幼児を持つ保護者のための家庭教育学級 子育てを楽しむ親力UP講座」について説明。

(意見・質問)

委員：保育付きではないので、下の子がいる場合は受講できない。働いている保護者が多いと思うので、土曜日や日曜日開催にしたほうが受講しやすいと思う。

副会長：子育ては様々な問題を抱えていると思う。この講座はこの内容でいいと思うが、子育てについては町田市でももっと力を入れていただきたい。現在、核家族化が進み、小さい子どもを持つ若いご夫婦が町田市へ引っ越してきているので、その方達の子育てを見ているととても心配することが多い。子育て世代の人口が増えているのではないかと思う。

事務局：この事業は今までやれていなかった分野である。公民館では、乳幼児、小学生、中学生を持つ保護者のための講座を実施してきたが、小学校へあがる前の子どもを持つ保護者のための学級はできていなかった。小さな子どもを持つ方に参加していただきたいが、他の事業で保育付きを増やしたため、保育付きにできなかった。土曜日や日曜日といった、保護者の方が参加しやすい曜日と時間帯であれば良かったという反省がある。

副会長：この講座を実施できることは良いと思う。

委員：初めてこの講座を実施することはとても良いことだと思う。核家族化が進んでいるので、お母さんたちが持つ子育ての不安を相談できる場は必要だと思うので、もっと広がっていくと良いと思う。

委員：来年度は保育付きにしていきたい。市民企画講座も保育をつけていただきたい。

委員：ボランティアで保育をしていただける団体はないのか。

事務局：保育士さんとは契約を結んでいる。保育士賃金の枠の中で、全ての学級で保育付きにするのは難しくなっている。子どもを預かることは非常に責任があり、保育士さんにも様々な研修を受けていただいている。例えば、ひきつけの対処法などの救急救命研修等である。安全第一で考えている。また、今は託児という形態が多い。生涯学習センターではただ預かるだけではなく、子ども達にも学んでいただいている。保育士さんには、学ぶ視点から子どもを預かるという形態を取っている。

委員：私が行く小学校の保護者会では、社会福祉協議会のふれあいサロンの中で認められているチームがボランティアで保育を受け持っている。だいたいの方が資格を持っていない。泣き出してしまったときは、会場へ連れてくることもあるが、他の部屋を使用して絵本の読み聞かせ等を何名かで行っている。近辺の方ばかりなのでそれが成り立つのか、他の施設では同様のことができるのかという問題はありますが、そういった形の預かりのボランティア活動が機能しているところもある。柔軟な対応が考えられれば良いと思う。

副会長：どうしても安心、安全が優先されてしまうのではないか。

事務局：従来の公民館の保育室の運営では、子ども達にも学んでいただいて成長できるように考えながら保育をしていた。予算の関係があり、保育がつけられない現状があるので、運営を見直していく必要もあると考えている。

副会長：同じフロアに親がいるので、最終的には親を呼ぶことができると思う。

委員：泣き出して困ったときは親を呼ぶという形を取っている。

副会長：その場に親がいるので、何かあったときは親に頼っても良い。柔軟な対応でもっと気楽に、大勢の方が講座を受講できるシステムができればいいと思う。

委員：町田友の会の方が講師になっているが、これはどういう方々か。市内で家庭教育分野の活動をされていて、これを機会に参加者が相談できるような団体か。

事務局：担当者からそこまでは聞いていなかった。

委員：町田市で開催する講座なので、何か悩み事で困ったときに相談できるような団体が入っていると今後のためになると思う。もしそうであれば、非常に良い企画だと思った。

(4) 資料4「市民企画講座 素敵な高齢期を生きる」について説明。

(意見・質問)

委員：講師の方が株式会社になっているが、どういう絡みになるのか。営業に繋がるようなことはないのか。

事務局：市民団体からの企画である。営業に繋がらないように、確認はしている。

会長：電話での先着順であるが、年齢制限はかからないのか。

事務局：年齢制限はない。若い方も興味があれば、市民企画ではなく公民館事業として考えていくこともある。

委員：講座の内容によって年齢を表記しなくてはいけないケースもあると思うが、特定のものではない限りは年齢を表記しないほうがいいと思う。

(5) 資料5「市民企画講座 アートの力、アートの可能性」について説明。

(意見・質問)

副会長：市内に多くのアーティスト達がいることを知らない人達に知っていただく意味では、良い企画だと思う。

委員：アートという広い視野で捉えているが、市民大学を修了した人達で作っているサークルの中でも様々な勉強を継続されている。そういう方々に、それぞれのジャンルの中でコンテストみたいなものを作っていただくのも良いと思う。そういうものを盛り上げる手助けする形になるが、そういった講座はできないか。コーディネートできる方が大勢いるので、その方達を活用するののも一つの方法であると思う。賑わいを取るためには、そういうやり方があってほしいと思うが、いかがか。

事務局：この講座は、市民企画講座としての位置づけである。生涯学習センター内でこの企画を立てたのではなく、市民団体から出てきたものを講座として採用し、この形で実施することになった。新たにコンテストのような企画をする場合、生涯学習センターとしてやるべき事業なのかを考えなければいけない話である。来年の1月、2月あたりに「まちコレ」を開催する予定である。ここでは、ファッションショーだけでなく、他の企画も含めて行おうと考えている。

委員：市民企画ということを失念していた。コンテストの企画が将来考えられることであれば、やってみるのも一つの方法であると思って、申し上げた。

委員：市民企画講座の場合は、企画の構成員が自主的に、内容も全て決めていると思うが、職員の役割は何か。内容には一切関わらないという理解でいいのか。

事務局：企画団体と職員は相談しながら企画・実施している。企画がアーティストの方達の紹介で終わる内容であると生涯学習センターで実施する意味がない。市民企画として採用することは生涯学習センター事業であるので、内容について意見することはしている。市民が運営する力をつけることが市民企画の趣旨であるので、団体が自分達で運営するために一緒に企画等を行っている。

委員：このテーマは専門的すぎるので、職員も専門的に勉強をしなくてはいけないと思うが、アートを学ぶ市民の立場から職員としてサジェスションはできると思うので、そういう意味での役割を担ってほしいと思う。

委員：効果指標の目標の数字がどれも8割になっている。定性的な目標と定量的な目標が両方とも

8割になっているが、どのように判断していいのか。

事務局：通常の講座では、80%を超えれば成功したということが感覚的にある。また、前年に実施した講座は、対前年比で考えている。

委員：目標を入れなければいいと思う。結果として記載するのであれば良いが、する前に数字を入れるからいけないと思う。

副会長：目標を入れるとしたら、あくまでも100%ではないか。

委員：内容を100%できないことを分かっている、それだけのことしかやらないのかという話になる。80%とでよしとするのか。

会長：これは、成功とみるのが80%ということだと思う。その議論はどこの評価にもあり、達成度目標に対して結果はどうであったかということになる。

委員：単なる目標ではなく、達成度といったらいいのではないか。

会長：達成度目標に対して、どうだったかを次で考えるのが今の評価の方法である。目標を100%にして結果が80%だった場合、20%下がった原因は何かという話になる。

委員：初めから80%ならば、あとの20%をどう理解するのか説明していただくと話が済むのではないか。

会長：世の中の評価の方法が達成度目標に対してどうだったのかという評価である。例えば、60と見積もっていて、結果が70だったときと、100と見積もっていて、結果が90だったときでは、90のほうが評価されないということになる。

副会長：これから事業を展開するにあたって、目標を100にすると、100にならなかった場合は全て駄目という評価を受ける可能性があるということである。

委員：最初は80でも、その次は85という形で、その数値目標に達成するよう努力する、目標に達すればうまくできたという評価をしている。

事務局：例えば、目標が60や50であれば、この事業を実施する必要があるのかとなるが、目標を100とすると、結果が90であっても評価は下がってしまう。ここの数値は、一般的なものを持ってきている。

委員：それであれば、達成度目標と記載したらどうか。そのほうが分かりやすい。

事務局：ここでは効果指標を数値として表すものになり、どういう指標で数値を持つてくるのか「度」ではなかなかイコールにならない。

委員：先に80と書いているのならば、同じ理屈ではないか。

事務局：目標は必ず80ではない。前年度実施した事業ではアンケートの結果をみて数値を決めている。例えば、資料6をみると目標は70になっている。これはサタデーコンサートを何度も実施してきた積み重ねの中で目標を設定している。常に80とは限らず、必ず前年と比較して妥当な目標を定めていることが大切だと思う。

3. 事業実績について

(1) 資料6「サタデーコンサート Vol159 木管アンサンブルの夕べ」について説明。

(意見・質問)

会長：C評価の固定化の問題は、演奏者が固定化しているということか。

事務局：演奏者を紹介している方が固定化しているということ。

会長：その固定化がジャンルの固定化に繋がっていると思われるので、今後はジャンルを調整していただきたい。

委員：どういうジャンルを考えているのか。

事務局：例えば、日本的なもの。邦楽や、洋楽であればジャズなどである。

委員：改善点のところで、クラシックファンだけでなく他のジャンルにも挑戦する価値があるというのは確かにその通りだと思う。しかし、今回はクラシックとして実施したのであって、他のジャンルは別の機会に実施すればいいと思う。これは改善点ではないと思う。クラシックコンサートとしては、非常に良かったのではないかなと思う。クラシックのことに対して改善する必要はないと思う。

事務局：サタデーコンサートはクラシックが中心である。クラシック音楽は、日頃馴染みがなく、コ

ンサートマナーを身につけるには一番良い。静かに聞いていただくことを身につける為にはクラシックコンサートが合っている。しかし、サタデーコンサートとして考えたときに、違うジャンルで実施できないかということで、改善点として記載している。年に1回、ライブコンサートを開催して若い方に聞いていただくという試みはしている。サタデーコンサートでも様々なジャンルを実施したほうが良いということで検討している。

会 長：この評価シートは、59 回目のコンサートの評価なのか、サタデーコンサート全体の評価なのかどちらか。

事務局：サタデーコンサート全体の評価である。

(2) 資料7「和太鼓1日体験講座」について説明。

(意見・質問)

委 員：コストが高いと感じる。広報まちだ8月21号の市民のひろばでは様々な催しがあり、和太鼓の体験レッスンを500円で行っていた。そういうものとの整合性を考えていくと、このコストはどう考えたらいいのかと思った。合同演奏であり、たくさんの講師がくるので、その分コストはかかると思うが、1人のために4427円はどうかと思う。事業の有効性がA評価であるが、ここはどういう判断をしているのか。

事務局：事業成果をA評価に挙げているのは、10代～80代までの方が参加し、世代間交流ができたという意味もあり、若い方が日本伝統文化に触れるという目的も達成され、アンケートでも100%になったので、そういう意味でA評価とした。

会 長：受益者の公平性はA評価になっているが、一人に4427円のコストがかかっている、受けた方と受けていない方の差があるという意味での公平性はどうか考えているのか。

事務局：これは、特定の方だけでなく、幅広い年齢層の方を集められたという意味での公平性である。受講した方だけ受益を受け、それは他の市民からみれば不公平ということに繋がると思うが、ここの見方はあくまでも幅広い年齢層に来ていただいたという意味での公平性である。

委 員：方法論としては検討の余地があると思う。参加者に喜ばれ、伝統の楽器に触れられた点は良いが、コストパフォーマンスの面は悪いと感じる。方法を変えれば、同じことを同じような成果を得てできるかもしれないので、今後に向けて改善策を提案できると思う。

(3) 資料8「東京女学館大学共催講座 学び再入門」について説明。

(意見・質問)

会 長：前年度はことぶき大学のプログラムだったのか。

事務局：ことぶき大学ではない。高齢者向きの内容だったので60歳以上と限定していた。もともとは、「60歳からの学び再入門」というテーマで、高齢者に改めて学んでいただきたいという狙いだった。今年度は、60歳以上という制限を外した形である。

会 長：講師以外にコーディネーターの先生はいたのか。

事務局：コーディネートした先生が一人いる。

会 長：コーディネートがうまくいっていない。3つのテーマをそのまま載せただけで、もう一回調整する必要があったと思う。

委 員：職員の役割がポイントだと思う。市民企画講座の場合そうだが、大学の共催の場合も丸投げにすると意図したものと違うものが出されてしまうことがある。職員がしっかりと受け止めて、市民が学びを再入門するときに、きっかけとしてどういう入り方があるのかを十分にやり取りする必要があったと思う。来年に向けてもう一つ頑張ってもらいたいと思う。

委 員：チェック機能の仕組みを作ったらどうか。そうすることで、解消できる問題もあると思う。

委 員：それぞれの内容があまりに違いすぎる。テーマがいろいろあり、いかがなものか。

委 員：再入門というタイトルはどうかと思う。

事務局：「60歳からの学び再入門」というタイトルだったのを、60歳というのを外した。内容的にもそういうところがある。

5. その他

特になし

<報告事項>

1. センター長報告

(1) 教育委員会について

8月3日に開催した。市民大学の修了生による団体紹介冊子を報告した。冊子を作成した意図を明記したほうがよいとの指摘を受けた。今後、教育委員会の冊子については、目的を明記することになった。全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムについて、9月1日に町田市の石阪市長がシンポジウムに参加する。議案について、町田市教育委員会の施策等の点検及び評価(2011年度分)について資料を出している。生涯学習部としては、市民のニーズにあった学習機会を提供するということがあった。次回は9月4日に行われる。この生涯学習センター運営協議会の委員を1名委嘱していきたい。

(2) その他

2013年度の予算について、情報システム導入費を計上していきたい。生涯学習部の中でも優先順位が高い。ホールの空調機の修繕費として130万円程計上している。センタービルの負担金について、保守点検と共有部の修繕費を計上している。電気料金の値上げについて、年間200万円程かかる。9月の市議会について、一般質問が9月5日から11日、決算委員会が9月24日に予定されている。センタービル関係では、生涯学習センター事業のポスターを外壁とエレベーター内に掲示するのをお願いをしている。子どもフェアのポスターは掲示した。ペディストリアンデッキの一区画にポスター掲示ができるようになった。防災訓練について、昨日、生涯学習部内の訓練を行い、災害時の職員体制を確認した。教育プランの改定会議について、教育プランは2014年度に5年目を迎える。後半の5年度について方向性を決めているところであるが、かなり改定されることになる。それに伴い、生涯学習推進計画も同時進行で計画を策定していくことになる。たたき台を作って、生涯学習センター運営協議会にも諮っていきたい。庁内あり方検討会について、9月中に報告書を出し、来年度の事業に反映していきたいと考えている。施設管理について、生涯学習センターでは熱中症対策に取り組んでいる。節電と熱中症対策を考慮しながら実施している。熱中症で救急搬送された例は8月までにはない。

2. 東京都公民館連絡協議会の活動について

委員：8月の委員部会は8月27日に行われる。7月の研修会以降、特に集まりはないので、報告事項はない。配布資料の中に第1回研修会記録やアンケート結果等があるので、ご覧いただきたい。第2回研修会は10月6日(土)13時半から国立市の公民館で開催される。

3. その他

特になし

→次回は9月23日(日)10時～ 生涯学習センターで行う。